

ダムによる尻別川分断を 解消しましょう

渇水状態

魚道向け

尻別川本流

導水管へ

6月にサクラマス的大量死が起きた北海道電力・蘭越発電所取水堰。
7月20日、事業者の承諾を得て、上空からドローン搭載カメラを使用し山田直住さん撮影。

OBIRAME RESTORATION GROUP NEWSLETTER Aug. 2025

尻別川の未来を考える
オビラメの会 61

6 月中旬、尻別川下流に位置する蘭越^{らんこし}発電所取水堰（北海道電力）直下で、多数のサクラマスが死亡しているのが見つかりました（6月14日付け「北海道新聞」）。高さ8mの堰^{せき}に付随する階段魚道に流木などが詰まって一時的に水流が途絶え、おりからの高温の影響で水中の酸素濃度が急低下し、逃げ遅れた魚たちが被害を受けたとみられます。報道後間もなく現地を踏査したオビラメの会会員によれば、カワヤツメ・フクドジョウ・ヌマチチブといった魚類の斃死^{へいし}も確認されました。

このダムを含め、尻別川には6つの発電ダムがあり、それぞれ相当の川水を送水管に分配して、数キロ下流の各発電施設に供給しています。このため尻別川は、各ダムから送水管排出口までの区間で減水を余儀なくされ、「川魚にとって大きなリスク」と指摘されてきました。今回の大量死は、近年の高温とあいまって不安が現実になった形です。

各発電事業者は河川管理者から水利権を得ています。河川法に基づく尻別川水系河川整備計画（2024年）は、正常流量「毎秒21.0トン」（名駒^{なこま}地点）の維持を定めていますが、以前から水利権を持つ各事業者は、魚道に振り分け



別角度から撮影した魚道。

るわずかな量を除き、「既得権」として川水の独占を容認されてきた可能性があります。

しかし、「流水の正常な機能が維持され……河川環境の整備と保全がされるように」（第1条）とうたう河川法に照らせば、既得権者に対するこうした優遇は時代錯誤でしょう。当会は関係機関と連携しながら、事故原因の究明と再発防止、「イトウやアユ等魚類等の生息・繁殖環境、移動の連続性の確保及び産卵の場の保全・創出」（上記整備計画）に向けた取り組みを求めていく方針です。



有島ポンド採卵会

2427粒の授精卵を確保

当 会はニセコ町内の「有島ポンド」で5月6日、畜養中のイトウ親魚たちを対象に、人工採卵と人工授精を試みました。

毎年恒例のメインイベントとあって、見学者を含め約30人が参加。巨大魚の取り上げから、雌雄の選別、運搬、麻酔導入、測定、保定、採卵、そして蘇生とリリースまで、手分けして段取りよく作業が進みました。2尾の母魚から計2427粒（死卵を除く）を採取し、人工授精に成功しました。2017年に有島ポンドで人工採卵を始めてから、毎年欠かさず9年連続の採卵成功です。



吉岡俊彦会長の話
川村さん、浪坂さん、またオビラメの会のみなさま、ご苦労さまでした。約2500粒の授精卵を得られて良かったです。大切に育て、「尻別川イトウ復活の一役を担って下さい」と願うだけです。みなさんお疲れさまでした、ありがとうございました。

2025年5月6日の採卵会測定記録

測定尾数	29尾(♀5、♂24)
尾又長	最大100.0cm、最小73.0cm、平均82.8cm
体重	最大17.0kg、最小5.0kg、平均9.7kg



「有島ポンド」人工採卵成績

採卵日	メス	オス	採卵数
2017/5/20	2	1	4,400
2018/5/12	2	2	4,237
2018/5/19	2	3	4,180
2019/5/12	6	2	10,100
2020/5/6	2	1	2,580
2020/5/11	1	2	4,200
2021/5/8	5	4	8,710
2021/5/13	2	3	3,510
2022/5/7	1	3	2,440
2022/5/12	3	3	4,500
2023/5/6	1	3	1,763
2023/5/13	2	2	7,379
2024/5/6	3	4	6,175
2025/5/6	2	1	2,427
合計	34尾	34尾	66,601

酷暑の影響？ レジェンド親魚たちが 相次ぎ死亡

ことのほか嚴重な水質管理を心がけている有島ポンドですが、北海道地方を襲った熱波の影響か、6～7月に死亡する個体が相次ぎました。旧ヒラフポンド（倶知安町内で1998～2017年稼働）で飼育していたころから、長らく当会のオビラメ再導入活動に貢献してくれていた高齢の“レジェンドたち”も含まれます。彼女ら／彼らに最大の感謝を伝えたいと思います。

このページの写真撮影：平田剛士

いよいよラストスパート！ オビラメの会のイトウ再導入

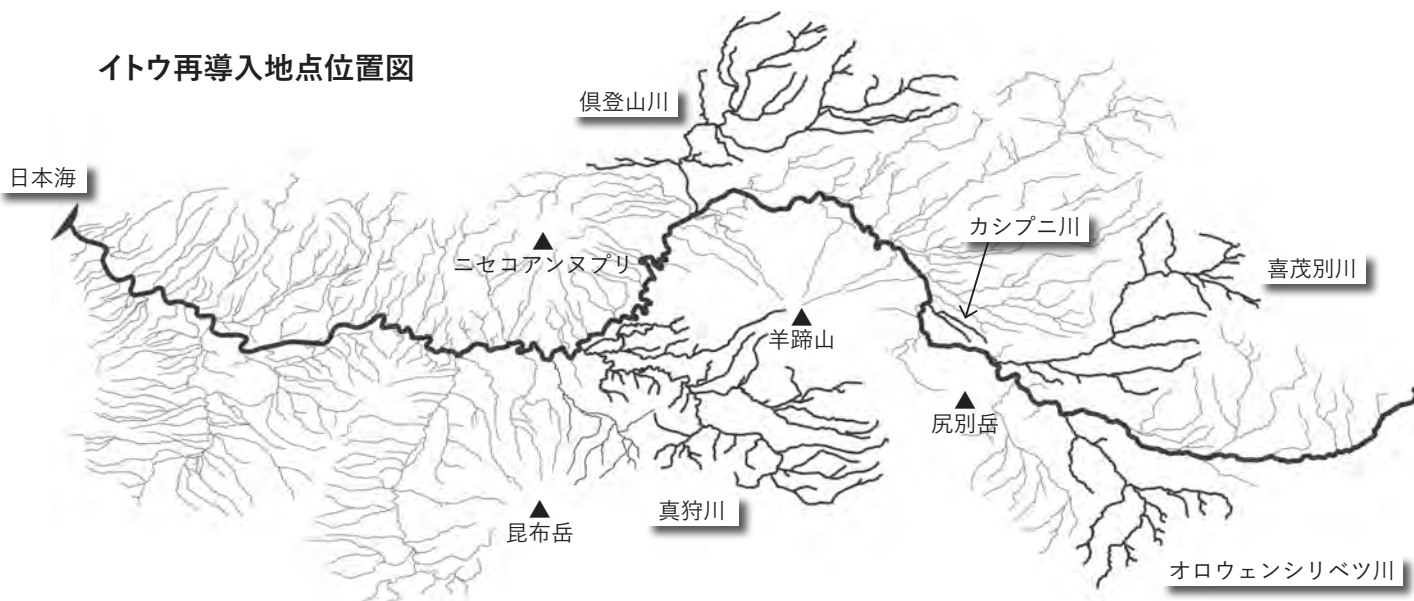
「イトウのすめる・イトウの釣れる尻別川」を目標に掲げたオビラメ30年計画（2001～2030年）にもとづき、当会は2004年の初放流から昨年秋までに、流域4自治体の7本の支流に計20,100尾のイトウ人工孵化稚魚を再導入してきました。2012年5月、標識放流魚の自然繁殖成功を初確認した^{くどさんがわ}倶登山川水系では、以降、2025年春まで14シーズン連続で自然繁殖が継続しています。また、2020年に再導入を開始したカシブニ川・喜茂別川・オロウェンシリベツ川の放流魚たちは、順調に育っていれば、あと数年で成熟年齢を迎え出します。「流域各所で自然繁殖地再生を果たしてオビラメの会を解散する」という目標期限まで、残り5年。当会の活動はいよいよラストスパートにさしかかります。



会員らと喜茂別川にイトウ稚魚を放流する喜茂別小学校の児童たち。2024年9月27日、喜茂別町で足立聡撮影。

放流日	放流場所	放流数
2004/09/25	倶登山川水系	1,789
2005/06/25	倶登山川水系	74
	倶登山川水系	500
	倶登山川水系	100
2005/06/25	倶登山川水系	1,000
2005/10/12	名無川	476
2007/09/24	倶登山川水系	1,000
2008/06/21	倶登山川水系	1,223
	倶登山川水系	40
2011/07/02	倶登山川水系	223
2012/5/20	倶登山川で標識放流魚の自然繁殖を初確認	
2014/05/23	倶登山川	66
2015/10/23	倶登山川	760
2015/11/07	第2カシュンベツ川	700
2018/10/14	倶登山川	520
	第2カシュンベツ川	520
2019/05/05	倶登山川で再導入第2世代の自然繁殖を初確認	
2020/09/26	オロウェンシリベツ川	1,814
2021/09/26	オロウェンシリベツ川	1,650
	喜茂別川	1,650
2021/09/28	カシブニ川	1,100
2022/09/28	喜茂別川	845
2022/09/30	カシブニ川	800
2023/09/26	カシブニ川	800
2023/09/27	喜茂別川	500
2024/09/25	喜茂別川	500
2024/09/26	カシブニ川	500
2024/09/27	カシブニ川	225
	喜茂別川	225
2024/09/28	オロウェンシリベツ川	500
	合計	20,100

イトウ再導入地点位置図



尻別イトウ繁殖地「見まもり」隊 2025シーズンの記録

オビラメの会は2025年4月から5月にかけて、尻別川流域で唯一確認されているオリジナル個体群の自然繁殖地で「見まもり活動」を実施しました。河川管理者や自治体と協働しながら、2011年から15シーズン連続で「完全保護」を達成。期間中に目視確認したイトウたちの産卵行動回数は10度でした。「見まもり日誌」を採録します。写真は、定点にセットした自動撮影カメラ(愛称オビカム)の撮像です。

VISION OBCAM01 2025/05/07 15:22:07 PIR Trigger 10 19°C 66°F 10



降水量/最高気温/最低気温/日照時間

4/18 10.0mm/15.2°C/-2.0°C/5.7hr

川村in、山根in ♂2確認

4/20 5.5mm/10.9°C/4.6°C/0.2hr

9:30 足立in。右岸小沢より濁水

15:30 足立out

4/21 0.0mm/9.4°C/4.0°C/0.7hr

午前 川村in ♂1確認

13:30 足立in

17:00 山根in 水門下流で♂2確認

19:00 山根out。足立泊

4/22 —/15.4°C/2.6°C/8.1hr

8:30 川村in
ハウス前のニセアカシア伐採

8:45 菅原組in。ロープ張り、看板設置

11:45 オビラメハウスとトイレを設置

12:30 川村out

14:15 藤盛in

15:15 山根in

15:30 足立out。山根泊

4/24 0.5mm/17.4°C/4.9°C/2.5hr

6:00 右岸水門下流で♂2

6:30 足立in、山根out

8:00 川村in

9:30 菅原in。ポイントポール設置。
トイレ固定作業

11:45 川村out

12:00 濁りが入る。イトウ見えず

15:00 濁りが強い

18:00 足立泊

4/25 6.0mm/10.7°C/3.8°C/0.1hr

6:00 山根in。イトウ見えず

6:30 山根out

8:30 川村in。喜茂別小学校から児童ら見学

12:30 藤原in、「俱登山川支流でイトウ親魚ペアを確認した」

13:00 川村in

テーブル、チェアを搬入

14:00 川村out

15:00 増水して濁りが強くなる

15:30 足立out

4/26 1.0mm/11.7°C/3.1°C/5.2hr

5:52 坂田in、石川in、相澤in

6:30 ♂2尾(1mくらい/80cmくらい)

6:40 藤盛in

10:45 男性見学者2

11:59 ♂1尾(1mくらい)

16:00 藤盛out

16:11 ♂1尾(1mくらい)

17:56 ♂1尾(1m弱)

4/27 7.5mm/8.5°C/1.4°C/0.7hr

6:00 L1♂1(大)

6:13 ♂1尾(1m超)

8:00 風で寒い。川村in
坂田・石川・相澤泊

9:54 ♂1尾(1m超)

10:40 ♂1尾(1m超)

13:55 ♂1尾(1m超)

16:02 ♂1尾(1m超)

4/28 1.0mm/14.6°C/-0.7°C/8.0hr

6:16 ♂1尾(1m超)

6:20 ♂1尾(1mくらい)♀1尾(同じくらいのサイズ)ぴったりくっついてる。♂が何度も♀を跨ぐ。

7:10 産卵した様子。♀が横になってバタバタしている。

8:00 川村in

8:15 足立in

9:30 水門下流に♂1

10:30 水門付近に♂1

13:43 ♂1尾(1m超) 上流へ移動

13:55 ♂1尾(1m超) 合流点より少し上流

14:00 右岸看板の上流に♂1

14:30 親子連れの見学者3

15:00 坂田・石川・相澤out

15:40 山根in

16:30 山根out

18:00 足立泊

4/29 16.0mm/6.3°C/4.1°C/0.0hr

6:00 濁りあり、イトウ見えず

7:00 藤盛in

8:00 川村in

9:00 右岸水門の上流に♂1
看板前に♂1

9:30 酒井in、友人1 ♂2を確認

11:55 左岸水門上流部でディギングを確認。個体は下流へ移動

12:50 右岸水門の下流30m地点、左岸寄りでディギングを確認

14:20 産卵した模様

14:30 川村out

15:00 産卵ペアのうち♀は推定70cm台、カバーリング行動。♂は接近と離脱を繰り返して、近くに別の♀がいる可能性？ 藤盛out

15:05 合流地点にジムニー停車。釣り人かどうかは不明

15:40 OBICAMがジムニー運転者を撮影

17:10 足立out

4/30 0.0mm/9.4°C/2.2°C/2.5hr

4:30 足立in

6:00 山根in ♂2確認
濁りなし、水位低下

7:30 川村in

8:00 右岸水門～合流点に♂1-2

10:15 右岸水門50mに♂1、80cmくらい

12:00 合流点上流に♂1、80cmくらい

13:40 ワンドでディギング

14:10 OBICAM上流10mで別ペアがディギング

15:00 ワンドのペア産卵

16:00 OBICAM上流10mの別ペア産卵 川村out

16:25 L0にペア。♀3?

17:00 親子3人の見学

18:00 ♂4♀3を確認

19:00 山根out、足立泊

5/1 —/17.9°C/-0.2°C/13.2hr

6:20 OBICAM上にペア

6:35 右岸水門前にペア、ディギング

9:00 右岸水門前にペアが産卵

9:30 山根in。俱知安町教育委員会から3人見学

9:40 俱知安小学校の児童らが見学

11:50 見学者1

12:15 水門前に♀1

12:50 ハウスの上流10mに♂1

13:40 OBICAM上流10mに♂1

17:00 濁りが出てイトウ見えず

5/2 8.5mm/16.5°C/7.9°C/4.0hr

5:50 坂田in、相沢in、末吉in

雨で濁っていて何も確認できず

6:15 ワンドに♂2

6:30 OBICAM上に♂1

6:40 OBICAM上流20mで掘り確認

7:00 ワンドで掘り

8:00 俱知安小樺山分校児童が保護者と見学

9:30 喜茂別小学校見学





11:00 山根out
13:00 川村out、足立out
18:00 坂田・相沢・末吉泊

5/3 18.5mm/15.2°C/8.3°C/5.7hr

前夜からの雨で大增水、視認不可能

7:00 藤盛in、足立in
8:00 川村in
8:40 北大生2人が見学
9:00 藤盛out
12:00 瀧澤in(さしいれ)、北大・荒木さん見学
18:00 坂田&学生2泊

5/4 5.0mm/12.9°C/6.4°C/2.1hr

濁りあり、水量多め

7:00 藤盛in、足立in、川村in
10:40 ㊦1尾浅いところにしばらく定位。確認はできなかったけれど、♀がいるのかも
11:00 ワンドに㊦1
OBICAM上流に㊦1
12:00 坂田&学生2out
14:00 ワンド前㊦1
14:20 藤盛out
17:00 見学者2。足立泊

5/5 0.5mm/14.1°C/5.8°C/8.0hr

6:00 イトウ見えず OBICAM前にアライグマの足跡
6:50 藤盛in 水深計前に㊦1
7:14 見学者1(帯広から)
7:30 見学者1 川村in
9:20 見学者1 ㊦2
12:20 見学者1 ㊦1
12:50 見学者2
13:00 見学者2
15:00 濁りが出る
16:30 見学者3(親子)
足立泊

5/6 —/16.0°C/4.2°C/9.1hr

5:00 北大生2人が見学
右岸水門下流に㊦1
6:00 玉井in
6:30 OBICAM上からペア遡上
7:20 ワンドで掘り行動
9:00 (有島ポンド採卵会)

12:00 見学者1、北大荒木さんが採水 ワンド下に㊦
12:40 見学者2(魚道研究会)
14:30 見学者2
15:10 ワンドにペア、掘り行動
16:00 玉井in、山根in
17:50 ハウス前にイトウ(性別不明)1、足立・玉井泊

5/7 —/16.9°C/2.1°C/7.2hr

6:10 ワンドに㊦1
6:20 山根in
8:00 イトウ見えず
9:00 右岸水門下に㊦2
10:00 見学者2
10:20 ワンドに㊦1、ハウス上流でペアが掘り行動
13:05 ハウス上流のペアが産卵
14:00 OBICAM上に㊦1 川村out
15:40 水門下に㊦3 山根in
15:50 足立out

5/8 —/18.8°C/2.2°C/6.8hr

6:00 足立in
6:30 ワンドに㊦1
9:00 川村in
11:00 川村out
12:00 ワンドに㊦1
15:30 ワンドの㊦1が合流点OBICAM近くに移動
16:00 山根in
17:00 山根out、足立泊

5/9 —/20.5°C/4.6°C/7.2hr

6:00 イトウ見えず
6:50 山根in ㊦3
8:00 ワンドに㊦1、合流点上に㊦2
10:00 大井in(さしいれ)
11:00 イトウ見えず、大井out
12:00 見学1
12:20 見学1
15:00 ハウス前の枯木にニウナイスズメ営巣
17:00 見学2(ニセコのフィッシングガイド)
18:00 山根in、足立泊

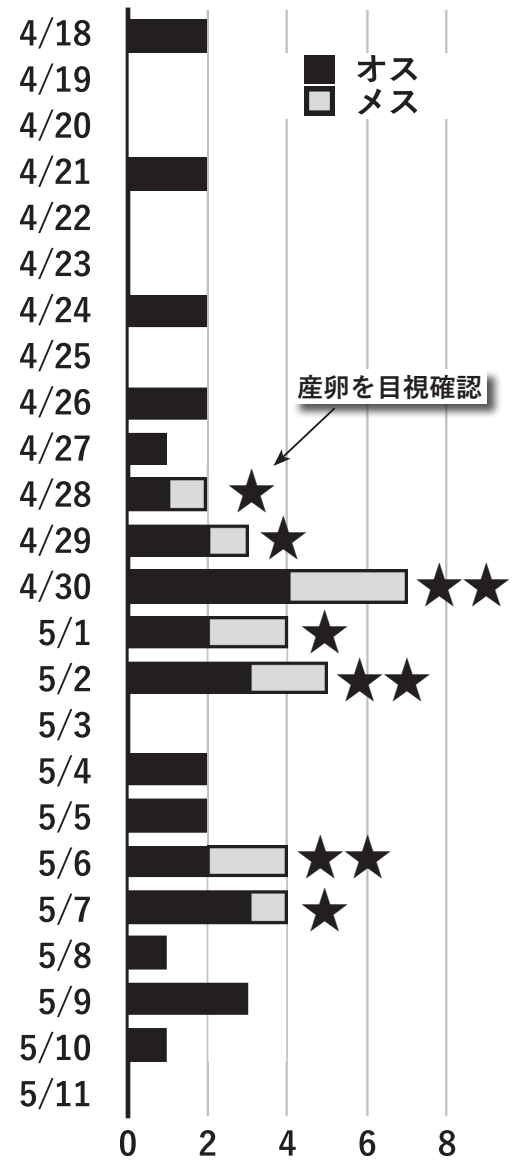
5/10 3.0mm/14.8°C/9.9°C/0.0hr

9:00 合流点OBICAM近くに㊦1
12:00 イトウ見えず
15:00 足立泊

5/11 5.5mm/13.4°C/7.6°C/3.2hr

6:00 濁りが出る

親魚最大目撃数と産卵確認回数



2025年シーズンの見まもり活動は、前年に引き続き、「北海道新聞野生生物基金」のサポートを受けて実施しました。期間中の見まもり活動参加者はのべ87人・日、見学者はのべ94人・日でした。(オビラメの会)



※気象データは気象庁倶知安測候所の観測値。出典:気象庁ウェブサイト

倶知安小学校で オビラメ特別授業

尻別川水系に唯一残るオリジナルの野生イトウ繁殖支流を擁する倶知安町の倶知安小学校（児童数約 230 人）で 6 月 10 日、イトウの生態を学ぶ特別授業が開かれました。

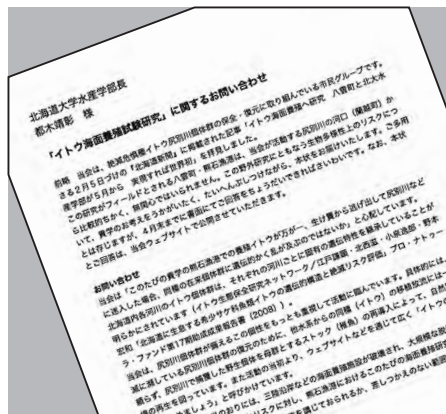
同小の児童たちは、毎春の繁殖期に合わせ、町外れの繁殖支流を訪れ、オビラメの会「見まもり」メンバーたちのガイドで野生イトウのダイナミックな産卵行動を間近に見学しています。この日の学習はそのフォローアップとの位置づけ。見まもり隊リーダーで水中写真家の足立聡さんが講師に迎えられました。

1980 年代から絶滅寸前の状態が長く続いてきたせいで、野生イトウの生態や実態は地元の大人たちにもほとんど知ら



れていません。足立さんは、決定的瞬間を捉えた多数の作品を惜しみなく披露しながら、イトウの魅力や環境保全の大切さを子どもたちに伝えました。

児童たちの前でスライドショーを披露する足立さん。2025年6月10日、倶知安小学校で、平田剛士撮影。



「イトウ海面養殖」は生物多様性を破壊しかねません

北海道大学の実験計画に公開質問状

オビラメの会は 2025 年 4 月、北海道大学水産学部に対し、同大学が北海道八雲町やくもくまいし熊石漁港で計画している「イトウ海面養殖」について、「お問い合わせ」を送付しました。また、同大学から届いた回答書に対し、「海面養殖は生物多様性を破壊しかねません」「水産開発にイトウを巻き込まないで」「イトウの家畜化に反対」などとするコメントを出しました。これらの文書はオビラメの会ウェブサイトで公開しています。



夏の日有島ポンド

年会費2万円の「法人会員」枠を新設

2025年度オビラメ総会で規約を改正

当会は6月28日、2025年度定期総会をニセコ町民センターで開催しました。

「オビラメ30年計画」のゴールが5年後に迫るなか、活動資金安定化に向け、従来の個人会員（年会費2千円）に加え、新たに法人会員（年会費2万円）の枠を設けることなどを決議しました。

オビラメの会規約(改正部分の抜粋)

(入退会)

第5条 本会の趣旨に賛同して会費を納入した者は会員とする。都合により脱会する場合は届け出た者、又、年度内に会費未納の者は退会した者とみなす。

【以下を追加】

第5条-1 入会希望者が未成年の場合、従事する活動を制限する場合がある。保護者の同意を求める場合がある。

第5条-2 欠格要件 暴力団及び暴力団関連企業の構成員ではないこと。

(会費)

【改正前】第7条 入会する場合は年会費として2000円を徴収する。

【改正後】第7条 入会する場合は年会費として2,000円(法人会員は20,000円)を徴収する。

【新規に追加】

(禁止事項)

第12条 個人の営利目的のために会を利用しないこと。会を利用した政治活動を行わないこと。



2025年5月6日、ニセコ町の「有島 Pond」で。

「オビラメの会」は新入会を歓迎します

当会は、会費と寄付金などで運営される非営利の市民団体です。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。年会費は2千円（法人会員は2万円）です。郵便局の振り込み用紙に住所、氏名、電話番号を明記のうえ、「入会希望」と書き添えて、右のゆうちょ銀行口座にお振り込み下さい（手数料はご負担願います）。オンライン送金窓口もご利用ください。会員期間はお振り込みいただいた日から年度末（5月）までです。おむねひと月以内にニュースレターをお届けします。

■年会費 2,000 円

法人会員 20,000 円

■ゆうちょ銀行

02720-9-11016

■加入者名「オビラメの会」

オンライン送金窓口



WANTED



標識オビラメ見つけたら

☎ 090-8279-8605

オビラメ事務局 マデ

ひごろのご支援に深く感謝いたします

(株)瀧澤電気工事(北海道苫小牧市) 公益財団法人北海道野生生物基金(札幌市)

オビラメの会ニュースレター 第61号(2025年8月発行)

OBIRAME Newsletter No.61 August 2025

■発行 ■ 尻別川の未来を考えるオビラメの会
会長/吉岡俊彦 事務局長/川村洋司

■編集 ■ 平田剛士

■印刷 ■ (株)須田製版(北海道滝川市栄町3-5-16)

■口座 ■ ゆうちょ銀行 02720-9-11016 オビラメの会

■事務局 ■ 北海道虻田郡ニセコ町ニセコ315-198(川村方)

〒048-1511 TEL 090-8279-8605

<http://obirame.sakura.ne.jp/index.html>

©2001-2025 Obirame Restoration Group

水と空気、みどりの大自然

ニセコが好きだ

楽しんだあとは川を語ろう

まぐろ屋十割

ニセコ町富士見 65 TEL/FAX 0136-44-2472

Email / itou110@sa2.gyao.ne.jp